

ああ、大鹿ダンプ街道

～リニア工事が終われば村は元に戻るのか～



街道をゆくダンプ軍団（『ああダンプ街道』より）

「10年たったら静かな大鹿村に戻る」

本当でしょうか。

JR東海が進めるリニア中央新幹線事業。
大鹿村は長野県で最大の影響を被ります。
中でもトンネル工事によって排出される残土を運ぶために
一日1000台以上の工事車両が通行する予定です。
その影響が何をもたらすのか、誰も予測が付きません。

「道がよくなるならリニアは受け入れるべきだ」

「工事を早く終わらせるため、多少は我慢しないと」

「残土は有効活用できるから村内に置いてもいい」

かつて、山砂の産出地域では、
大量のダンプの通行による騒音・振動、粉じん、排気ガス、
交通事故などで住民の生活環境が大きく壊されました。
そういった被害は「ダンプ公害」と呼ばれています。
死亡事故が起きれば道を広げ、バイパス道が作られました。
そしてそれらの地域では現在、
残土や廃棄物の処分場の問題に住民たちは悩んでいます。

大鹿村は「ダンプ街道」と無縁でしょうか、それとも……

■日時 2016年10月30日(日) 午後2時～4時

■場所 大鹿村公民館鹿塩地区館大広間（長野県下伊那郡大鹿村大字鹿塩2610）

■資料代 500円

□お話

佐久間充さん（女子栄養大学名誉教授、保健社会学）「各地のダンプ街道のこれまで」

佐々木悠二さん（元高校教員、小櫃川の水を守る会事務局長）「千葉県君津市の残土・廃棄物問題・ダンプ公害」

□報告（予定）「大鹿村の残土置き場の実情」

主催 「ああ、大鹿ダンプ街道」集会実行委員会

TEL 0265-39-2067（宗像）

後援 大鹿の100年先を育む会

賛同 大鹿村を守る会、大鹿リニアを止める実行委員会、上蔵地区住民有志、飯田リニアを考える会、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、リニア・市民ネット東京、リニア市民ネット山梨、リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク、リニア新幹線を考える登山者の会、旅舎右馬允、天龍激流会、溪流9条の会

講師紹介

・佐久間充

1937年生まれ。東京大学、女子栄養大学で教える。1970年代から学生とともに千葉県君津市のダンプ公害の調査を行う。住民だけでなくダンプにも同乗した綿密で公平な調査は、他地域のルポとともに『ああダンプ街道』（岩波新書、1984年）にまとめられた。他著書に『山が消えた 残土・産廃戦争』（岩波新書、2002年）

・佐々木悠二

千葉県君津市在住。高校の元地理の先生。在職時から小櫃川を守る活動を30年近く続ける。また、君津地域のダムや山砂採取、産業廃棄物、放射性廃棄物、干潟などの環境問題に取り組み、いくつもの開発計画を食い止める。地元三市の水道水源保護条例や、県外からの残土持ち込みを防ぐ君津市の残土条例の制定にも尽力。